

# 私の一冊

一般教育等 高田 佳輔 先生

ベンジャミン・リベット[著] 下條信輔訳 『マインドタイム:脳と意識の時間』

小鹿図書館 491.371/L 61

「これは私がやったのではない。『無意識』が勝手にやった。」

ダイエット中にも関わらずチョコレートが 255 個食べていた友人に対して、ダイエットを応援していたあなたはどのような反応をするだろうか。当然あなたは、直ちに友人の行動を咎めるであろう。しかしながら、本書を手にとったあと、あなたは同じようにその人の行動を直ちに咎めることはできるであろうか。

本書には、脳科学者であるベンジャミン・リベットが実験から得た非常に興味深い知見が2つ紹介されている。その知見は、私たちが思いもよらなかった、にわかには信じがたい事実を示すものであった。

第1に、人間は目の前の出来事が実際に生じた約 0.5 秒後になってはじめて、その出来事を意識することができるという知見である。付け加えて、それを意識した際には、0.5 秒前に生じた出来事として、意識の方で時間が補正されて認識される。つまり、意識としては、その遅れに気づかないような(リアルタイムで認識していると思わせる)構造になっていることも示されている。さらには、その出来事(画像を見るなど)が 0.5 秒間継続していないと、その出来事に気づくことができない。なので、サブリミナル効果を狙った画像は、人間が認識することができない 0.5 秒未満の長さで映される。

第2に、人間が自由意志に基づいて行為をおこなう場合に、自由意志をもとに脳に命令を発する約 0.55 秒前にすでに無意識のうちにその神経活動は始まっており、その行為を実行しようとする意識が現れるのはその行為のたった 0.2 秒前という知見である。言い換えれば、この結果は、人間が「その行為を自ら意思決定した」と感じるよりも、0.35 秒前にその行為を実行するための脳活動が無意識的に始まっていることを意味している。したがって、「自分が決めたから行動をした(例:自分でチョコを食べようと決めたから(原因), チョコを食べた(結果))」というように、自由意志に基づく意思決定は行為の「原因」と考えるのが自然ではあるが、この第2の知見は、時間的観点から見れば意思決定が「結果」でしかないことを示しているのである。

このような事実を聞かされて、あなたはまともでいられるであろうか。私は、この本がきっかけ

で、研究者の道(=挑戦の道)を選んだ。その際、全ての責任を「無意識」に押し付けた。結局、人は何らかにコントロールされる運命にあるのだ。ならばいっそのこと、倫理感・道徳感を持ちつつも、とびっきり大きな挑戦をし続けて生きて行こうではないか。ちなみに、大学生という期間は、大きな挑戦をしやすい環境が整っている。この環境を活用し、でかい花火を打ち上げる、もしくはその準備をするのも良いであろう。